



今月の題字
豊間根 愛実ちゃん
(荒川小6年)

町のわだい

数学者の秋山仁さんが講演 面白さを実感できる教育を

町生涯学習推進本部主催の合併50周年記念事業「マナビィ、ネットワークinやまだ特別講演会」が6月5日、中央公民館で開かれました。講師は数学者の秋山仁さん。「子どもの数だけ夢があり 子どもの数だけ将来がある」と題し、会場に詰め掛けた町民550人の聴衆を前にさまざまな器具や実験装置を用いてユーモアたっぷりに講演しました。最後に宮沢賢治の教育思想をひもときながら、「学ぶことの面白さを実感できる教育が必要」と締めくくりました。



花まりんで「プチ博」が開幕 大勢の行楽客でにぎわう

6月18日、花と緑の公園市場「花まりん」の「プチ博」が開幕しました。プチ博は花まりんを運営する花と緑の地域づくり協議会が開園1周年を記念して企画したものです。開幕セレモニーでは来場者が花の種の付いた風船を飛ばした後、中央広場でわかき保育園園児や船小ヤーレンソーラン元気隊による踊り、宮古商業高校の海鳴太鼓が披露され、大勢の行楽客でにぎわいました。7月17日までの期間中には、華道団体の野外創作生け花のオブジェが展示されるほか、週末を中心に各種講座やコンサートなどが開かれます。



山田高校 創立80周年 サッカー、野球部が招待試合 強豪相手に熱戦を展開

6月11日、山田高校創立80周年記念事業の一環として、サッカー部と野球部の招待試合が行われました。サッカー部は同校グラウンドで平成16年度全国高校選手権ベスト8の盛岡商業高校と対戦。野球部は町民総合運動公園野球場で、昭和63年度に甲子園大会に出場した宮城県気仙沼市の東陵高校と戦いました。選手たちは在校生や父母らが見守る中、記念試合にふさわしい熱戦を展開。結果、サッカーは1対4で盛商が勝ち、野球は2対2で引き分けました。



全日本学童軟式 野球大会県予選 山田南野球スポ少が準優勝 東北大会への出場権を獲得

高円宮賜杯第25回全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメント岩手県予選で、山田南野球スポ少が準優勝に輝きました。大会は6月4日から大船渡市で行われ、各地区の代表31チームが出場。3回戦まで順調に勝ち進んだ山田南スポ少は、準決勝で宮古市の磯鶏バッファローズに6対2で快勝し決勝へ進出しました。決勝の相手は盛岡市の松園ジャガーズ。5回にスクイズで1点を失い惜しくも0対1で敗れましたが、同大会初の準優勝を果たし、東北大会への出場権を獲得しました。16日には選手の皆さんが役場を訪問。沼崎喜一町長に準優勝の報告を行いました。



荒川小児童ら 岩手公園の教育記念像を清掃 小國先生の行動を後世に

荒川小学校の3～6年生26人が6月23日、盛岡市の岩手公園を訪れ、昭和17年7月に荒川国民学校(荒川小の前身)の水泳の授業中に川でおぼれた生徒を助けようとして亡くなった小國テル子さん＝当時21歳＝を顕彰する教育記念像を清掃しました。小國さんの勇気ある行動を後世に伝えようと学校行事として初めて取り組んだもので、児童らはスポンジやタオルなどを使って隅々まで磨き上げました。清掃活動には小國先生の教え子である70歳代の地区民4人も参加し、像周辺の草取りを手伝いました。清掃終了後には市内のコーラスグループが顕彰歌「ああ小國訓導」を合唱。児童たちは耳を傾けながら命の尊さを学んでいました。

豊間根 小学校 創立130周年で記念授業 卒業生らが講師を務める

創立130周年を迎えた豊間根小学校では記念事業の一環として6月25日、同校卒業生ら7人を講師に招いて授業を行いました。全体授業は同校体育館で行われ、イラストレーター、デザイナーなどとして活躍する卒業生の齋藤敏文さん＝昭和51年卒、東京都在住＝が制作風景を収めたビデオを上映した後、サクスの生演奏をバックにライブアートを披露。「未来のみんな」をイメージした作品を完成させた齋藤さんは「40歳を過ぎて豊間根がますます良く見えてきました。今の豊間根を思いっきり楽しんで」とメッセージを送りました。その後児童は教室に戻って学年ごとに授業を受け、先輩の話に目を輝かせて聞き入っていました。

